

The Behaviormetric Society of Japan

2016



日本行動計量学会

第44回大会 プログラム冊子

Program of the 44th Annual Meeting of the Behaviormetric Society of Japan

2016年8月30日(火)～9月2日(金)



札幌学院大学

日本行動計量学会

第 44 回大会プログラム

このたび 8 月 30 日から 9 月 2 日までの 4 日間、日本行動計量学会の第 44 回大会を札幌学院大学で開催させていただくことになりました。

本学の紹介を簡単にさせていただきます。札幌学院大学は、1946 年にその前身となる札幌文化専門学院が創立されてから、今年 2016 年は創立 70 周年を迎えます。その記念の年に日本行動計量学会の大会を開催できることを喜ばしく思います。本学は、経営学部、経済学部、人文学部、法学部、社会情報学部の 5 学部 9 学科からなる文系の総合大学です。開学当初は札幌市内に校舎がありましたが、その後、大学規模が大きくなり、札幌市のベッドタウンである江別市にキャンパスを移しました。大学の郊外移転の先駆けでした。また人文学部人間科学科(昭和 52 年)や社会情報学部(平成 3 年)は日本で最初に、さらに臨床心理学研究科(平成 12 年)と臨床心理学科(平成 13 年)は北海道で最初に設置されるなど、時代を先取りしていました。

本学を含めて江別市内の近隣には 4 つの大学があり、特に本学のある地区は文教地区として江別市が都市計画した場所であります。ほとんどの学生は北海道内からの修学で、在学生数は 5000 名前後の中規模大学です。立地としては、最寄りの JR 駅は函館本線大麻(おおあさ)駅で、JR 札幌駅から快速で 12 分、降車後徒歩約 10 分です。また新千歳空港からの場合は、新札幌駅で下車していただき、路線バスで約 15 分でございます。札幌市内からのアクセスは非常に良いと言えます。詳しくは本学ウェブサイトの交通アクセスをご覧ください。

また、本学には講義棟が並列して配置されており、200~250 名程度が収容できる大教室がコンパクトに配置され、全国規模の学会の開催には適しております。過去には 500 名以上参加の全国学会を数回開催した実績がございます。

さて、今回の大会も特別講演「柳井レクチャー」として村上征勝先生(勉強文化情報研究所所長、統計数理研究所名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授)により「文化を計る試み—浮世絵・文献・考古学の計量分析—」と、本学教員である北田雅子先生による特別講演「『面談を可視化する』動機づけ面接法の魅力」をそれぞれご講演いただきます。また、昨年より始まりました、深い議論が可能になる「ラウンドテーブルセッション」と「ポスターセッション」も開催いたします。

本学会の大会としましては、北海道での開催は 1985 年の北海道大学以来でございます。本大会で皆さまの研究の幅が広がり、さらに刺激的な研究交流の場となりますことを祈念しております。

第 44 回大会実行委員長 中村永友
(札幌学院大学経済学部)

大会の概要

1. 基本情報

- (1) 期 間: 2016年8月30日(火)~2016年9月2日(金)
30日は、チュートリアルセミナー
- (2) 場 所: 札幌学院大学
- (3) URL: <http://bsj.wdc-jp.com/2016/>
- (4) 問い合わせ先:
大会ヘルプデスク(bsj-desk@bunken.co.jp)
大会実行委員会(bsj2016@sgu.ac.jp)
- (5) 大会の構成:
- | | | |
|----------|-------------------------|---------------------------------------|
| 8月30日(火) | 12:00~13:00 | 日本行動計量学会大会初参加者ガイダンス |
| | 13:30~17:00(受付開始 13:00) | チュートリアルセミナー |
| 8月31日(水) | 10:00~17:30(受付開始 9:30) | 特別セッション、一般セッション、ラウンド
テーブル・ディスカッション |
| 9月1日(木) | 10:00~12:00(受付開始 9:30) | 一般セッション |
| | 13:00~14:00 | ポスター発表 |
| | 14:10~15:40 | 特別講演 |
| | 15:50~16:50 | 柳井レクチャー |
| | 17:00~18:00 | 総会 |
| | 18:20~20:20 | 懇親会 |
| 9月2日(金) | 10:00~17:30(受付開始 9:30) | 特別セッション、一般セッション |

2. 大会までのスケジュール

- | | |
|-----------------------|---|
| 2016年2月9日(火) | Web サイト公開 |
| 2016年3月10日(木) | 特別セッションの企画募集開始 |
| 2016年4月1日(金) | 一般研究発表申込開始
抄録集用原稿受付開始
チュートリアルセミナー参加申込開始
大会参加事前申込開始 |
| 2016年4月28日(木) | 特別セッションの企画募集締切(5月11日(水)まで延期) |
| 2016年6月6日(月) | 一般研究発表申込締切 |
| 2016年6月13日(月) | 抄録原稿提出締切 |
| 2016年6月27日(月) | プログラムウェブ公開 |
| 2016年7月11日(月) | 大会参加事前申込締切 |
| 2016年7月29日(金) | プログラム冊子送付 |
| 2016年8月30日(火)~9月2日(金) | 第44回大会 |

3. 参加費等

(1) チュートリアルセミナー参加費

	正会員	準会員(学生)	賛助会員	非会員(一般)	非会員(学生)
早期振込	3,000 円	2,000 円	3,000 円	6,000 円	4,000 円
当日支払	4,000 円	3,000 円	4,000 円	7,000 円	5,000 円

- 早期振込は Web による参加申込(7 月 11 日まで)と、参加費振込(7 月 15 日まで)をともに行われた方が対象です。
- それ以後は当日会場にて、参加のお申込みと会費をお支払いください。

(2) 大会参加費

	正会員	準会員(学生)	賛助会員	非会員(一般)	非会員(学生)
早期振込	5,000 円	2,000 円	5,000 円	10,000 円	5,000 円
当日支払	7,000 円	4,000 円	7,000 円	12,000 円	6,000 円

- 大会参加費には抄録集 1 冊を含みます。
- 正会員には名誉会員・シニア会員を含みます。
- 賛助会員は 3 名様まで無料です。事前に参加券を 3 枚お送りしますので、この券を持参された方が対象です。4 人目以降は、上記金額です。なお、事前参加申込みより無料の登録を行った方も、当日必ず参加券をご持参ください。
- 抄録集は 1 冊 3,000 円で頒布します。
- 早期振込は Web による参加申込(7 月 11 日まで)と、参加費振込(7 月 15 日まで)をともに行われた方が対象です。それ以後は当日会場にて、参加のお申込みと会費をお支払いください。

(3) 懇親会費

種別	一般	学生
早期振込	5,000 円	1,000 円
当日支払	6,000 円	1,000 円

- 定員に達した場合は受付を終了することがあります。
- 早期振込は Web による参加申込(7 月 11 日まで)と、参加費振込(7 月 15 日まで)をともに行われた方が対象です。それ以後は当日会場にて、参加のお申込みと会費をお支払いください。

4. 振込先

	ゆうちょ銀行 振替口座
記号番号	00190-4-386225
加入者名	日本行動計量学会大会
口座名称(カナ)	ニホンコウドウケイリョウガッカイタイカイ

他の金融機関からゆうちょ銀行へお振り込みされる場合は、下記情報をご利用ください。

銀行名	ゆうちょ銀行
店名	〇一九店(ゼロイチキュー店)
店番	019
預金種目	当座
口座番号	0386225

※恐れ入りますが、振り込み手数料はご負担くださいますようお願い申し上げます。

5. 宿泊について

大会実行委員会では、宿泊に関する斡旋をいたしません。

札幌駅周辺で宿をお取りいただければ、様々な利便性が良いかと存じます。

6. 昼食について

本学の G 館(50 周年記念館)の 6 階に食堂がございます。大学の周辺にはほとんど食堂の類がございません。ご持参頂くか本学食堂をご利用頂ければと存じます。

無線 LAN

キャンパス内では eduroam 無線 LAN の使用が可能です。また、大会期間限定の eduroam 接続環境を用意しております。大会受付にお問い合わせください。

会場の機器と発表用資料について

発表(「オーラル(口頭)」、「ラウンドテーブル」)には、液晶プロジェクタが利用できます。コネクタは VGA 方式に対応しております。PC はご自身のものをご持参ください。Mac OS の場合は変換アダプタをご用意ください。また、セッション開始前に接続テストを済ませてください。何か不都合がございましたら、大会実行委員会にご相談ください。

発表用の資料は原則として抄録集に掲載されたものとします。オーラル(口頭)セッションで補足資料を利用する場合は、50 部程度を目安として配布プリントをご持参ください。

一般セッションについて

本大会は、ある特定テーマについて議論を行う「特別セッション」と一般研究発表を行う「一般セッション」から構成されます。第 44 回大会の一般セッションの発表形態には「ポスター」、「オーラル(口頭)」があります。

一般セッション「ポスター」では、割り当てられたセッション中にポスターを掲示し、かつ、各ポスターの発表者が在籍責任時間の 60 分間、質疑に応じます。詳細については、別項目「ポスターセッションについて」に記載されていますので、そちらをご覧ください。

一般セッション「オーラル(口頭)」における発表時間は、質疑応答を含めて 20 分です。座長の指示に従い、時間厳守をお願いいたします。「会場の機器と発表用資料について」の説明もご覧ください。

特別セッションについて

本大会は、ある特定テーマについて議論を行う「特別セッション」と一般研究発表を行う「一般セッション」から構成されます。第 44 回大会の特別セッションの発表形態には、「ポスター」、「オーラル(口頭)」、「ラウンドテーブル」があります。

特別セッション「オーラル(口頭)」は、1 セッション 120 分で、3 件以上の発表をまとめ、一つの企画として実施されます。セッションは、オーガナイザー、司会者、討論者により進行します。それぞれのテーマに沿って発表を行い、発表に関しては、フロアからの質疑応答も可能です。その 1、その 2 として、複数セッションで実施されることもあります。

特別セッション「ラウンドテーブル」については、別項目「ラウンドテーブル・ディスカッションについて」に記載されていますので、そちらをご覧ください。

いずれも発表形式の詳細については事前にオーガナイザーの方にお問い合わせください。また、あわせて「会場の機器と発表用資料について」の説明もご覧ください。

ポスターセッションについて

一般セッション(ポスターセッション)は、2016 年 9 月 1 日(木)13:00~14:00 に 3 階廊下を会場として実施します。

発表は、次の要項に従って行いますので、発表者の方は、間違いのないようにしてください。

【ポスター発表の成立について】

1. ポスター発表は、指定された時刻までに会場の指定されたボード位置にポスターを掲示し、指定された責任在席時間(60 分間)中、在席し、質疑に応じることにより、正式発表とみなされます。
2. 責任在席時間は、2016 年 9 月 1 日(木)13:00~14:00 の 60 分間とします。責任在席時間以外の時間に在席されることは自由です。
3. 13:00 に、ポスターセッションの座長が席に着き、発表者の在籍を順次確認します。その後、14:00 にも発表者の在席を確認します。
4. ポスター発表者が欠席した場合、および責任在籍時間にいらない場合は、「発表取消」となります。発表者の欠席、(連名発表の場合)発表者の交替などについては、会期前は大会実行委員会に、会期中はポスターセッション座長にご連絡ください。

【ポスターの準備について】

5. ポスター掲示板(ボード)の大きさは、縦 118.9cm×横 84.1cm(A0 サイズのポスターが掲示可能です)です。これをポスターの大きさの上限として作成してください。
6. ポスターの上部には、発表題目と発表者全員の氏名と所属をご記入ください。連名の場合には主発表者に○印を付けてください。

【発表当日について】

7. 発表者は発表当日、11:50 までに総合受付で発表手続を行ってください。発表者の到着確認を行います。その際、ポスター掲示用の押しピン、テープ、吊り下げ金具を受け取り、発表会場(3 階廊下)の指定された番号のボードにポスターを貼ってください。
8. 発表者は 12:00 までに貼り付け作業を終了してください。12:00 の時点で貼り付けが終了されていることを実行委員が確認します。
9. 発表用の資料は原則として抄録集に掲載されたものとします。補足資料を配布される方は、50 部程度をご持参ください。配布も各自でお願いします。
10. 掲示したポスターは、ポスターセッションの座長が終了をお知らせした後、18:00 までに片付けてください。それ以降も掲示したままのポスターは大会実行委員会に取り外し、処分いたします。
11. 電源等のサービスはありません。

ラウンドテーブル・ディスカッションについて

本大会では、大会実行委員会企画としてラウンドテーブル・ディスカッションを行います。ラウンドテーブル・ディスカッションは、円卓を囲み話題提供者(「発表者」、「オーガナイザー」)のテーマにより自由に意見を交換しながら議論する場です。先着順にテーブルに着席した参加者は「討論者」として自由に発言できます。しかし議論した結果が特定の結論に至ることを課題としません。ラウンドテーブル・ディスカッションは研究成果を報告するだけでなく、現在抱えている研究上の疑問、現場での課題、課題についての解決策などを持ち寄り、参加者全員で当該のテーマについ

て議論します。また、これまでの現場での体験や研究成果をもとに新たな仮説を提案し、それを元に議論することも可能です。

一つのセッションの時間は 60 分となります(セッションを 2 つ組み合わせた 120 分のセッションもあります)。一般セッションとは異なり、十分な時間をかけて話題提供者と参加者が自由に意見交換を行い、テーブルを囲む全員が同じ立場と目線で話し合います。また、議論した内容を踏まえた上で、話題提供者だけでなく、フロアにいらっしゃる方々の研究についても、改めて深く考えていただき、今後のご自身の研究をどのように発展させたいかを考え、その内容をグループで共有し、さらに意見や感想をやりとりしていただくような研究者の交流の場としてもご利用いただければと思います。さらに、テーブルを囲む参加者(討論者)以外で、周囲のオブザーバー(テーブルの周囲の聴衆)も議論に参加することも可能です。話題提供者と参加者(討論者)が意見を交わしている状況に、オブザーバーが発言していただいてもかまいません。

なお、本大会では会場設営の都合上、円卓ではなくテーブルを口の字(四角)に配置し、椅子を 10~15 脚程度準備します。話題提供者(発表者・オーガナイザー)も参加者もともに着席します。参加希望者が多い場合は、周りのオブザーバー用の席をご利用いただけます。

1. ラウンドテーブル・ディスカッションは話題提供者(「発表者」、「オーガナイザー」)も参加者(討論者)も、ともに着席して開始します。なお、途中の入退場は極力お控えください。

「オーガナイザー」…セッションの企画者

「司会者」…話題提供者と討議の開始と進行を支える参加者

「発表者」…セッションにおける報告者

「討論者」…テーブルを囲んで討論する参加者

「オブザーバー」…テーブルの周囲の聴衆

(注)「参加者」とは上記の全員、「話題提供者」とは「オーガナイザー」と「発表者」の両方を指します。

2. まずは話題提供者が、研究の概要と論点についての説明を行ってください。セッションの時間の半分以上を討論の時間に充てるため、この説明が長くなりすぎないように気をつけてください。

3. 次に討論者全員が、ショートコメントをまじえた自己紹介を行ってください。

4. その後は話題提供者の発表の流れに沿いながら、討論者などからのコメントを交え、参加者全員で意見交換を進めてください。意見が活発に始め、論点が具体化したらその流れに任せてください。

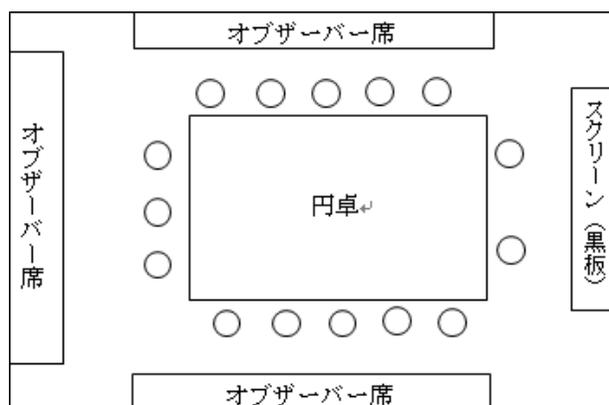
5. 司会者は第一の参加者として発言者を助け、ラウンドテーブルを囲む全員が交流できるよう、話題提供者と討議の開始と進行を支えてください。議論のための時間(セッションの半分以上)を確保するだけでなく、参加者に対し発言を促すようなことも状況に応じて行ってください。ただし、研究報告の主体は話題提供者であり、討議の主体は話題提供者と参加者です。司会者が進行に気を使わずとも、両者の発言が順調に進み始めたら、司会者は討議について自然の成り行きに任せてください。なお、司会者は、全体の意見をまとめたり、結論づけたりすることに責任を負う必要はありません。一参加者として、意見の交流を楽しんでください。また、討論者や他の参加者と協力し、時間どおりの開始と終了を目指して、時間の管理と進行をお願いします。

6. 今回のラウンドテーブル・ディスカッションでは、討議に加わらず、オブザーバーとして周囲で見学をするだけでも構いません。しかし、ご自身の意見を一言述べていただくだけでも研究の交流

が生まれますので、可能な限りテーブルに着席し、討議に参加してください。一人でも多くの方にテーブルに着席して議論に参加していただければ、意見交換も盛り上がると思います。積極的なご参加をお願いいたします。

※話題提供者はテーマについて議論できるような発表用の資料(プレゼン用ファイル、配付資料等)をご準備ください。補足資料がある場合は 30 部程度を目安として配布資料をご用意ください。発表には液晶プロジェクタ(VGA 方式)が利用できます。PC はご自身のものをご用意し、セッション開始前に接続テストを済ませてください。

ラウンドテーブル・ディスカッション会場イメージ



チュートリアルセミナー

テーマ：心理学・行動学におけるベイジアンモデリング

講師：岡田 謙介 先生(専修大学)

場所：札幌学院大学 D301 教室

日時：2016年8月30日(火)13:30～17:00 (13:00 受付開始、途中休憩をはさむ)

定員：150名

概要：

心理学・行動科学の実証研究では、ベイズ統計学の考え方に基づいて統計モデルの構築と評価、そして予測を行うベイジアンモデリングの研究が増加の一途を辿っている。その背景にはマルコフ連鎖モンテカルロ法を利用できる汎用ソフトウェアの実用化・普及がある。従来の構造方程式モデルなどが主として調査データを対象としたのに対し、近年のベイズモデリングの研究では実験データのモデリングが行われることも多い。こうした現状を踏まえ、本チュートリアルセミナーでは、まず(1)従来型のデータ分析法と対比しつつベイジアンモデリングの考え方を導入し、(2)最近の心理学・行動科学における実験・調査データのベイズモデリングの研究を紹介する。また、統計モデリングが柔軟に行えることは、統計的モデル評価・選択が重要になることも意味する。したがって、ベイズ

アンモデリングで重要となる(3)事後予測チェック、ベイズファクター、クロスバリデーションといったモデルの評価・選択法を紹介する。

参加費:

	正会員	学生	賛助会員	非会員
早期振込	3,000 円	2,000 円	3,000 円	4,000 円
当日支払	4,000 円	3,000 円	4,000 円	5,000 円

※早期振込は Web による参加申込(7 月 11 日(月)まで)・参加費振込(7 月 15 日(金)まで)ともに行われた方が対象です。それ以後は会場で「当日支払」の会費をお支払いください。

初参加者ガイダンス

8 月 30 日(火) 12:00~13:00

行動計量学会大会に初めて参加される方のために、学会初日に当たる 8 月 30 日(火)の 12:00 から、初参加者ガイダンスを行います。

大会担当委員会、広報委員会、第 44 回大会実行委員会が合同で開催するランチョンセッションです。学会大会への初参加者(自己申告)が出席できます。ランチやドリンクの準備の都合上、できるだけ参加予定の方は事前に予約してください。予約先は実行委員会(bsj2016@sgu.ac.jp)です。ラウンドテーブルの教室を使いますので、先着 15 名程度で打ち切ることがあります。

ランチョンセッションですので、ランチを楽しみながらラウンドテーブル形式で、最近の学会の活動の紹介(それを分析した発表)と交流会を実施します。続けてチュートリアルにも参加できるように終了しますが、チュートリアルセミナーのみの参加者は参加できません。参加できるのは、大会本体への申込み者のみです。

※ 理事や委員の方でガイダンスにご協力いただける方は、大会担当委員会までご連絡ください。

懇親会

9 月 1 日(木)18:20~20:20

札幌学院大学 50 周年記念館 8 階ラウンジで、懇親会を行います。参加費は一般が早期振込 5,000 円、当日支払 6,000 円、学生は早期振込・当日支払ともに 1,000 円です。早期振込の締切は 7 月 15 日(金)です。大会ウェブサイトに参加申込の上、お振り込みください。

特別講演「柳井レクチャー」

第 44 回大会では以下のように特別講演「柳井レクチャー」を実施します。柳井レクチャーは、2013 年に逝去された故柳井晴夫先生のご業績に関するご業績および学会へのご貢献を顕彰するため 2014 年 11 月 10 日開催の理事会にて創設が決定されました。柳井レクチャーでは、故柳井晴夫先生のご業績に鑑み行動科学における計量的方法の理論と応用について、講演者を毎年 1 名選出し、大会時に 1 時間程度の特別講演を行っていただきます。

日時:2016 年 9 月 1 日(木)15:50~16:50

会場:札幌学院大学 G 館 SGU ホール

タイトル:文化を計る試み —浮世絵・文献・考古学の計量分析—

講演者:村上 征勝 先生 (勉強文化情報研究所所長, 統計数理研究所名誉教授, 総合研究大学院大学名誉教授)

概要:

情報のデジタル化とその分析法の進歩が学問の発展に与えた影響は大きい。

しかしながらデジタル情報の分析が遅れている分野もある。講演では、「文化を計る試み」として、浮世絵を中心に、文献、考古学の分野の研究例を紹介する。浮世絵は江戸時代の庶民文化を代表するものであるが、計量的観点からの研究はほとんど行われていない。浮世絵に描かれている女性や歌舞伎役者の顔は絵師ごとに特徴があり、専門家は顔で絵師の特定ができるという。顔の描き方が絵師ごとに異なるなら、その違いを計量的に把握することで絵師の特定が出来るはずである。さらに、伝統的な研究方法では見いだせなかった新たな知見が得られる可能性もある。東洲斎写楽の役者絵の分析を中心に計量分析の有効性を示す。

また浮世絵以外の「文化を計る試み」として、『源氏物語』、『日蓮遺文』、『西鶴浮世草子』など著者に関して疑問が出されている文献や、古代寺院の建立時期の推定に関する研究も紹介する。

第 44 回特別講演

第 44 回大会では以下のとおり特別講演を実施します。

日時:2016 年 9 月 1 日(木)14:10~15:40

会場:札幌学院大学 G 館 SGU ホール

タイトル:「面談を可視化する」動機づけ面接法の魅力

講演者:北田雅子(札幌学院大学 人文学部 教授 医学博士)

司会・討論者:高田洋(札幌学院大学)

討論者:鈴木督久(日経リサーチ)、朝野熙彦(中央大学)、林文(統計数理研究所)

概要:

動機づけ面接法(以下 Motivational Interviewing :MI)は、アルコール依存症の治療技法に関する研究から生まれた面談です。「来談者中心的」な要素と「行動変容」という目標志向的の二つの要素を併せ持つスタイルとして特徴づけられています。MI は、米国の公的研究費によって実施された大規模なプロジェクトの中(project MATCH)で用いられ、この研究において MI が認知行動療法や飲酒に問題がある人を対象とする 12 ステップと同等な効果を持つことが証明され注目されるようになり、現在に至っています。これまで、MI の効果を確認するために 200 以上の臨床研究と 80 以上の RCT(Randomized Controlled Trial)が行われており、先行研究結果から、MI は従来型の権威的で指示的な面談スタイルよりも来談者の行動変容を促し効果的である事が明らかとなっています。昨今では、依存症治療の現場のみならず、ヘルスケア関連領域でも広く用いられるようになってきました。

MI が普及してくる過程において、MI らしい介入法について明確にする必要性が生じてきました。さらに、RCT を十分な規模で行うためにも治療者をトレーニングするシステムが必要となってきました。MI は、臨床現場において患者及び来談者の行動変容を促す面談を行う面談者の面談スタイルおよび発話を詳細に分析することによって、望ましい面談スタイルを構築しています。ですから、面談者や治療者が MI らしい面談ができているのか、客観的に評価することが、学習段階において不可欠になります。そこで、面談を録音し逐語録をコーディングし、治療者が行っている面談を評価するツールとして MITI(動機づけ面接法治療整合性尺度)が発展してきました。

今回は、MI の特徴と併せて MI の面談評価尺度によって、どのように面談という言葉行動がコーディングされ、数値化され、複数の指標によって評価されるのか紹介したいと思います。

討論会:

講演者の面談手法は、介入としての手法であるが、世論調査、社会調査、市場調査における面接調査にとって何ら得るところはないのだろうか。世論調査、社会調査、市場調査に見識のある研究者の方を討論者として、ご参加いただき、講演終了後それぞれの観点からどのように見えるのかご議論頂く予定です。

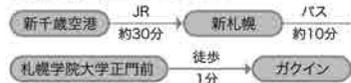
札幌学院大学キャンパスアクセスマップ



交通機関でのアクセス



■新千歳空港からのアクセス



■札幌駅からのアクセス

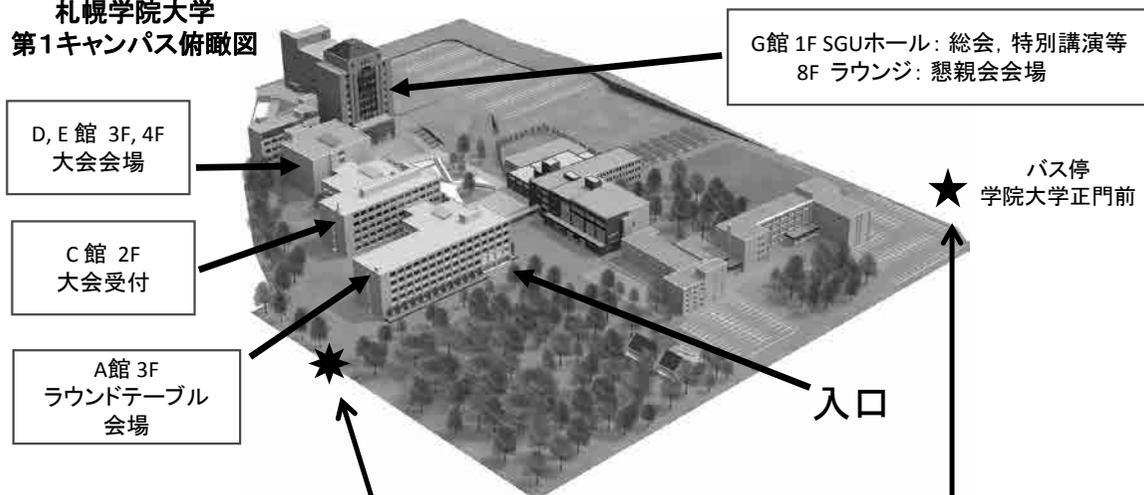


■大通駅からのアクセス



※ 新札幌駅バスターミナルでは、JR北海道バスが北レーン10番乗り場より、夕鉄バス北レーン12番より運行しています。「北翔大学前・札幌学院大学前」または「学院大正門前」で降車可能な経由バスに乗車してください

**札幌学院大学
第1キャンパス俯瞰図**



○大会受付・会場

大会受付はC館2階です。見取り図の「入口」から入って、2階までお進みください。
 一般講演等はD, E館の3, 4階の大教室、ラウンドテーブルセッションはA館の小教室で行います。
 ポスターセッションは3階のA館からE館の廊下で行います。
 総会、特別講演、柳井レクチャーはG館1階のSGUホールで行います。

○懇親会会場 (G館8階)

G館(50周年記念館)の8階ラウンジで開催します。
 A~E館の2階、あるいは3階を奥へ進んでいただき、エレベータで8階にお進みください。

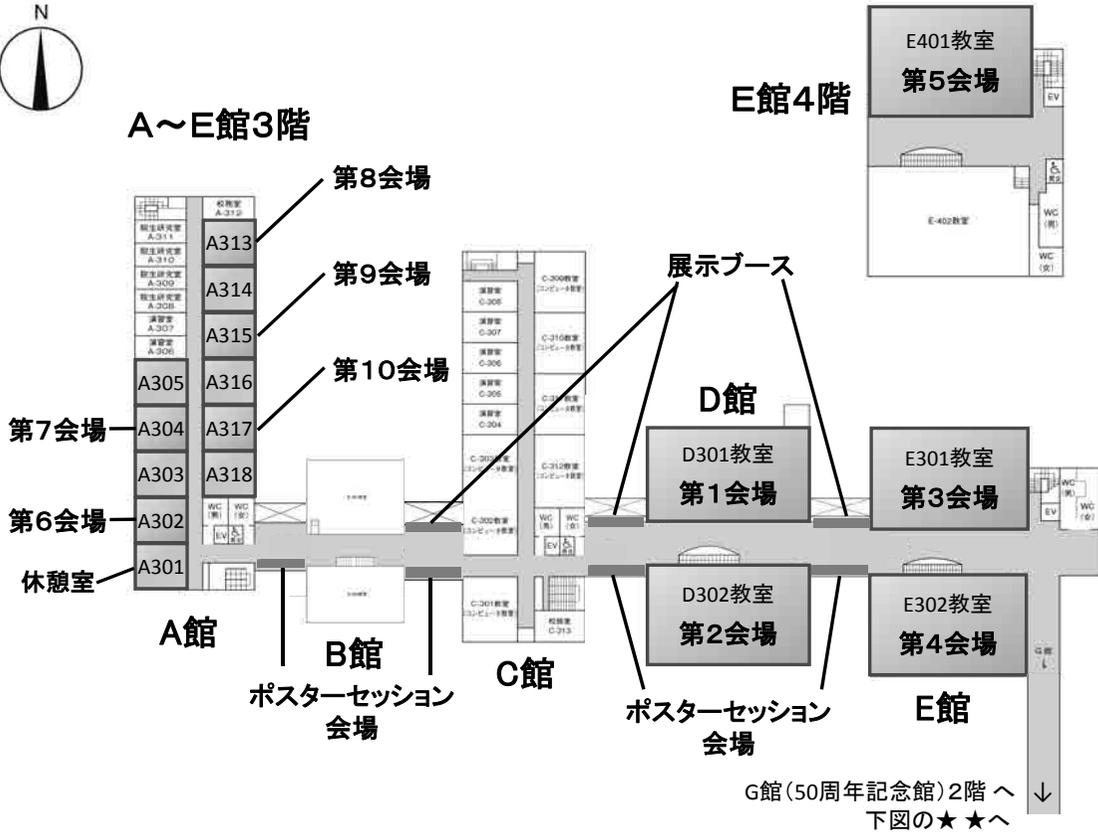
○生協食堂(G館6階)・生協購買(F館1階)

G館(50周年記念館)の6階です。A~E館の2階か3階を奥へ進み、エレベータで6階にお進みください。
 生協の購買はF館1階にあります。

○生協購買(F館1階)

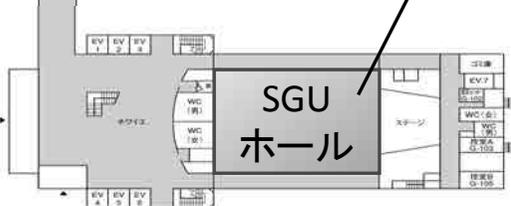
F館の1階にあります。A~E館の2階を奥へ進んでいただき、突き当たりがF館です。

※ A~E館の2階と、F, G館の1階が、同じ階層になっています。ご注意ください。



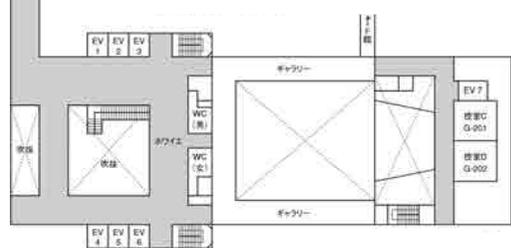
G館1階

↓ ★ ABCDE館 2階から
↑ ABCDE館の2階へ



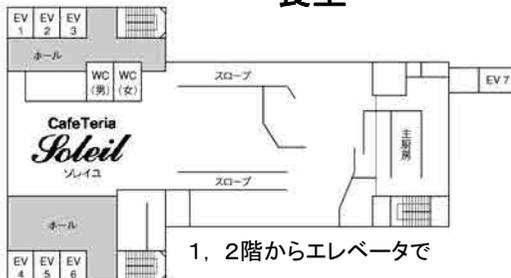
G館2階

↓ ★★ ABCDE館 3階から
↑ ABCDE館の3階へ



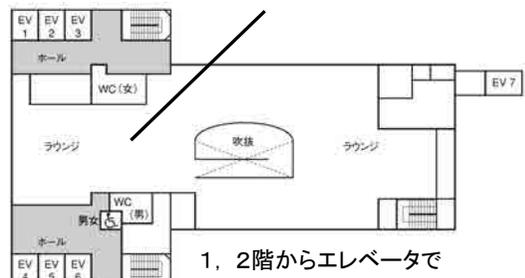
G館6階

食堂



G館8階

懇親会会場



※ A～E館の2階と、F、G館の1階が、同じ階層になっています。ご注意ください。

日本行動計量学会第44回大会プログラム

8月30日(火)											
12:00 ~ 13:00	ラウンドテーブル SS0021 日本行動計量学会大会初参加者ガイダンス 会場: A301										
13:30 ~ 17:00	チュートリアルセミナー タイトル: 心理学・行動科学におけるベイジアンモデリング 講師: 岡田 謙介(専修大学) 会場: D301										
17:10 ~ 18:10	運営委員会										
8月31日(水)											
	第1会場 D301教室	第2会場 D302教室	第3会場 E301教室	第4会場 E302教室	第5会場 E401教室	第6会場 A302教室	第7会場 A304教室		第8会場 A313教室	第9会場 A315教室	第10会場 A317教室
10:00 ~ 12:00	特別セッション SS0001 質問を「目で見える」調査のバイアスの傾向—郵送調査やインターネット調査による事例と今後の課題—	特別セッション SS0012 行動ビッグデータ解析における機械学習アプローチと統計的生成モデルの対立と融和1	特別セッション SS0009 マーケティング革新のためのデータサイエンス	一般 言語データの分析	/	/	/		10:00 ~ 12:00	/	/
12:00 ~ 13:00	昼食・編集委員会										
13:00 ~ 15:00	特別セッション SS0002 意識の国際比較調査 — 文化の多様体解析 —	特別セッション SS0014 行動ビッグデータ解析における機械学習アプローチと統計的生成モデルの対立と融和2	特別セッション SS0017 非対称近接性データ分析のための理論・方法としてその応用	/	/	ラウンドテーブル SS0011 データサイエンスの動向	/		ラウンドテーブル SS0007 文系学生に対する心理統計教育の実践—反転授業の実践例と担当教員へのインタビュー調査をもとに— SS0013 教学IRIにおいて統計家が直面する課題	/	/
15:20 ~ 17:20	/	/	/	/	/	ラウンドテーブル S0010 近年の世論調査における問題点	ラウンドテーブル SS0015 統計的因果推論・徹底討論ラウンド2		15:20 ~ 16:20 SS0022 アカデミアにおける臨床研究支援に従事する統計学者の役割と課題 SS0008 電力・ガス小売り自由化制度にともなう調査研究	ラウンドテーブル SS0003 データの可視化の意義~経済データを中心とした事例を取り上げながら~	ラウンドテーブル SS0020 質問紙調査による社会的ネットワークの測定における課題について
17:40 ~	理事会										

9月1日(木)											
	第1会場 D301教室	第2会場 D302教室	第3会場 E301教室	第4会場 E302教室	第5会場 E401教室	第6会場 A302教室	第7会場 A304教室		第8会場 A313教室	第9会場 A315教室	第10会場 A317教室
10:00 ~ 12:00	一般セッション 計量文献学	一般セッション 災害の計量分析	一般セッション 数学・統計	一般セッション 教育	一般セッション 調査データ分析1	/	/		/	/	/
昼食											
13:00 ~ 14:00	ポスター発表 会場：3階廊下										
14:10 ~ 15:40	特別講演 講演者： 北田 雅子(札幌学院大学) 講演タイトル： 「面談を可視化する」動機づけ面接法の魅力 司会・討論者： 高田 洋(札幌学院大学) 討論者： 鈴木 督久(日経リサーチ)、朝野 照彦(中央大学)、林 文(統計数理研究所) 会場： G館SGUホール										
15:50 ~ 16:50	柳井レクチャー 講演者： 村上 征勝(勉誠文化情報研究所) 講演タイトル： 文化を計る試み—浮世絵・文献・考古学の計量分析— 会場： G館SGUホール										
17:00 ~ 18:00	総会 会場：G館SGUホール										
18:20 ~ 20:20	懇親会 会場：G館8階ラウンジ										
9月2日(金)											
	第1会場 D301教室	第2会場 D302教室	第3会場 E301教室	第4会場 E302教室	第5会場 E401教室	第6会場 A302教室	第7会場 A304教室		第8会場 A313教室	第9会場 A315教室	第10会場 A317教室
10:00 ~ 12:00	特別セッション SS0004 「全国統一治安意識調査」による体感治安の探索—「インタビュー型調査」の方法と結果—	特別セッション SS0019 次世代型統計教育への展望—クリッカー等を活用したライブ感のある授業実践	特別セッション SS0018 調査法研究をめぐる最近の話題—パラデータの活用を中心に—	特別セッション SS0006 健康リテラシー向上と活動量・体組成等生体ログビッグデータの分析	/	/	/		/	/	/
12:00 ~ 13:00	昼食・大会担当委員会										
13:00 ~ 15:00	一般 心理	一般 ICT利用	一般 調査データ分析2	一般 工学	/	/	/		/	/	/

8月31日(水)

10:00-12:00

8月31日(水) 特別セッション(120分) 【第1会場 D301 教室】
質問を「目で見える」調査のバイアスの傾向—郵送調査やインターネット調査による事例と今後の課題—

オーガナイザー,司会者:松田映二(埼玉大学社会調査研究センター)

討論者:山田一成(東洋大学社会学部)

S-1-1

郵送法の調査票レイアウトが回答に及ぼす影響
選択肢の縦・横配置や並び順および表形式や中間選択肢などの影響
○松田 映二(埼玉大学社会調査研究センター)

S-1-2

インターネット調査の選択式回答形式におけるスマートフォンとPCの回答特性
選択肢の数と列数の影響に着目した検証
○二瓶 哲也((株)インテージ)

S-1-3

景気動向調査に関連したいくつかの実験調査
○土屋 隆裕(情報・システム研究機構 統計数理研究所)

S-1-4

調査票の工夫が回答傾向に及ぼす影響
○朴 堯星(統計数理研究所), 土屋 隆裕(統計数理研究所)

8月31日(水) 特別セッション(120分) 【第2会場 D302 教室】
行動ビッグデータ解析における機械学習アプローチと統計的生成モデルの対立と融和 1

オーガナイザー:星野崇宏(慶應義塾大学 経済学部・大学院経済学研究科)

討論者:鶴見裕之(横浜国立大学大学院国際社会科学研究院)

討論者:宮崎慧(関西大学商学部)

S-2-1

メディア接触のログデータと意識データのギャップに関する考察
○残間 大地(株式会社インテージ), 中野 暁(株式会社インテージ), 星野 崇宏(慶應義塾大学経済学部・大学院経済学研究科)

S-2-2

段階推定のマーケティングへの応用について
○宮崎 慧(関西大学商学部)

S-2-3

オンラインとオフラインの購買行動推移はいつに起こるか?
大規模リテールデータから
○猪狩 良介(慶應義塾大学 経済学研究科), 星野 崇宏(慶應義塾大学 経済学部/経済学研究科)

S-2-4

EC サイトでのロコミとロイヤルティの構造に対する機械学習アプローチを取り込んだ統計モデルの構築

○松村 優哉(慶應義塾大学経済学部)

S-2-5

広告接触の因果効果・調整効果のブランド属性と個人属性の影響を探る:マルチレベルデータの因果効果推定

○加藤 諒(慶應義塾大学大学院経済学研究科), 星野 崇宏(慶應義塾大学経済学部・大学院経済学研究科)

8月31日(水) 特別セッション(120分) 【第3会場 E301 教室】
マーケティング革新のためのデータサイエンス

オーガナイザー, 司会者: 中山厚穂(首都大学東京大学院社会科学研究科経営学専攻)

S-3-1

クラスター中心を再計算しない大規模データのための非階層的クラスタリング

○中山 厚穂(首都大学東京大学院社会科学研究科経営学専攻), 出口 慎二(データエクスペローリング), 鳥谷 正彦(カスタマー・コミュニケーションズ株式会社)

S-3-2

マーケティング指標と価格許容性の関係性

○土田 尚弘((株)日本リサーチセンター), 廣澤 伸郎((株)日本リサーチセンター), 大森 雷太((株)日本リサーチセンター), 中西 智紀((株)日本リサーチセンター), 風間 洋介((株)日本リサーチセンター)

S-3-3

エネルギー消費行動の変化

○木方 真理子(東京電力ホールディングス株), 川島 隆志(株式会社 Biz パートナース)

S-3-4

カスタマージャーニーを用いたオウンドメディア施策による態度変容・行動喚起効果の把握

○村山 幹朗(株式会社コレクシア)

S-3-5

市場メカニズムによる組織内アイデア開発

○小野 滋((株)インサイトファクトリー), 佐藤 哲也(株式会社デザインルール)

8月31日(水) 一般セッション(120分) 【第4会場 E302 教室】
言語データの分析

座長: 森 裕一(岡山理科大学)

CE1-1 10:00~10:20

感情語想起の構造

○李 鍾贊(同志社大学文化情報学部), 入江 さやか(同志社大学文化情報学部), 余語 真夫(同志社大学心理学部), 金 明哲(同志社大学文化情報学部)

- CE1-2 10:20～10:40
感情エピソードの統計的分析
○柴田 麟太郎(同志社大学大学院文化情報学研究科), 余語 真夫(同志社大学心理学部), 金 明哲(同志社大学文化情報学部)
- CE1-3 10:40～11:00
統合的分類法による「古都」の著者推定
○孫 昊(同志社大学文化情報学研究科), 金 明哲(同志社大学文化情報学部)
- CE1-4 11:00～11:20
方言録音文字化資料から抽出した Bigram による各地方言分類の試み
—全国方言談話データベース『日本のふるさとことば集成』を資料として—
○入江 さやか(同志社大学大学院文化情報学研究科), 金 明哲(同志社大学文化情報学部)
- CE1-5 11:20～11:40
数量的な観点から「好色五人女」の文章に関する検討
○上阪 彩香(同志社大学研究開発推進機構), 村上 征勝(勉誠文化情報研究所)
- CE1-6 11:40～12:00
テキストマイニングを利用したヘルプデスクオペレータの評価情報の抽出
○小林 容子(筑波大学 システム情報工学研究科), 津田 和彦(筑波大学 システム情報工学研究科)

13:00-15:00

8月31日(水) 特別セッション(120分) 【第1会場 D301 教室】
意識の国際比較調査 --- 文化の多様体解析 ---

オーガナイザー: 吉野諒三(統計数理研究所調査科学研究センター)

S-4-1

国際比較におけるデータの読み方の注意
—「意識の国際比較」のための文化多様体解析—
○吉野 諒三(統計数理研究所調査科学研究センター)

S-4-2

アジア・太平洋地域における文化変容の比較分析
○鄭 躍軍(同志社大学 文化情報学部)

S-4-3

民主主義指標と国際データによるアジア・太平洋地域の比較分析
○芝井 清久(統計数理研究所)

S-4-4

国際比較調査における回答傾向について
○角田 弘子(日本ウェルネススポーツ大学 スポーツプロモーション学部)

S-4-5

アジア太平洋諸国におけるソーシャル・サポートと生きがい感 — 主観的健康感との関連 —
○朴 堯星(統計数理研究所)

8月31日(水) 特別セッション(120分) 【第2会場 D302教室】
行動ビッグデータ解析における機械学習アプローチと統計的生成モデルの対立と融和2

オーガナイザー,司会者:星野崇宏(慶應義塾大学 経済学部・大学院経済学研究科)

討論者:鶴見裕之(横浜国立大学大学院国際社会科学研究院)

討論者:宮崎慧(関西大学商学部)

S-5-1

T 会員の「食」の総支出金額推計に関する研究に関する取組み

○三浦 諒一(CCC マーケティング株式会社企画本部データベースマーケティング研究所)

S-5-2

行動経済学的変数と心理尺度を用いた家計の金融行動の理解

—複数テーマにまたがる大規模シングルソースデータの活用—

○光廣 正基((株)日経リサーチ), 遠藤 剛((株)日経リサーチ)

S-5-3

Deep Learning を用いたデータ融合による自社顧客の他社での購買予測

○新美 潤一郎(名古屋大学大学院 経済学研究科), 星野 崇宏(慶應義塾大学 経済学部)

S-5-4

学習ログとテスト解答データの関連の検討:認知診断モデルを用いたアプローチ

○山口 一大(東京大学大学院教育学研究科)

8月31日(水) 特別セッション(120分) 【第3会場 E301教室】
非対称近接性データ分析のための理論・方法そしてその応用

オーガナイザー:今泉忠(多摩大学経営情報学部)

S-6-1

Time series analyses of changes in asymmetric relationships among members over time (2)

○千野 直仁(愛知学院大学心身科学部)

S-6-2

非対称性を考慮した一般構造化成分分析法について

○谷岡 健資(和歌山県立医科大学臨床研究センター), 宿久 洋(同志社大学文化情報学部)

S-6-3

Dominance 点モデルのMajorization アルゴリズムについて

○土田 潤(同志社大学大学院文化情報学研究科), 宿久 洋(同志社大学文化情報学部)

S-6-4

特異値分解を用いた非対称多次元尺度構成法の拡張

—類似度行列の対角要素の再定義—

○岡太 彬訓(立教大学 名誉教授), 横山 暁(帝京大学)

S-6-5

局所的非対称データ分析の方法とその応用

○今泉 忠(多摩大学経営情報学部)

S-6-6

マーケティングデータにおける非対称性の分析

○中山 厚穂(首都大学東京大学院社会科学部経営学専攻)

8月31日(水) ラウンドテーブル(120分) 【第6会場 A302教室】
データサイエンスの動向

オーガナイザー,司会者:丸山久美子(聖学院大学名誉教授)

オーガナイザー,討論者:木下富雄(国際高等研究所フェロー/京都大学名誉教授)

R-2-1

リスク評価尺度の数量化の妥当性について

—順序尺度の表現定理からの検討—

○竹村 和久(早稲田大学文学学術院), 武藤 杏里(早稲田大学大学院文学研究科), 原口
僚平(早稲田大学大学院文学研究科)

R-2-2

ビックデータ、IoT時代のデータ収集の問題点

○水嶋 友昭((株)インターネット総合研究所)

R-2-3

大規模災害時の義援物資の制御に向けて

—義援物資マッチングシステムの挑戦—

○天野 徹(明星大学 人文学部)

13:00-14:00

8月31日(水) ラウンドテーブル(60分) 【第8会場 A313教室】
文系学生に対する心理統計教育の実践—反転授業の実践例と担当教員へのインタビュー調査をもとに

オーガナイザー:山田剛史(岡山大学大学院 教育学研究科)

オーガナイザー:村井潤一郎(文京学院大学)

オーガナイザー:杉澤武俊(新潟大学)

オーガナイザー,司会者:寺尾敦(青山学院大学)

R-3-1

文系学生に対する心理統計教育の実践

反転授業の実践例と担当教員へのインタビュー調査をもとに

山田 剛史(岡山大学大学院 教育学研究科), ○村井 潤一郎(文京学院大学), ○杉澤 武
俊(新潟大学), 寺尾 敦(青山学院大学)

14:10-15:10

8月31日(水) ラウンドテーブル(60分) 【第8会場 A313教室】
教学IRにおいて統計家が直面する課題

オーガナイザー, 討論者: 吉田清隆(神戸親和女子大学 発達教育学部)

司会者: 宮本淳(北海道大学 高等教育推進機構 高等教育研究部)

討論者: 山田邦雅(北海道大学 高等教育推進機構 高等教育研究部)

R-4-1

神戸親和女子大学におけるIR活動の取り組み

○吉田 清隆(神戸親和女子大学 発達教育学部)

15:20-17:20

8月31日(水) ラウンドテーブル(120分) 【第6会場 A302教室】
近年の世論調査における問題点

オーガナイザー, 司会者: 角田弘子(日本ウェルネススポーツ大学 スポーツプロモーション学部)

討論者: 松田映二(埼玉大学社会調査研究センター)

討論者: 袈岩晶(国立教育政策研究所)

R-5-1

日本の国勢調査における質問紙設計の課題

複合調査(留置・郵送・WEB・スマホ)導入時に検討されるべきこと

○松田 映二(埼玉大学社会調査研究センター)

R-5-2

大規模教育調査とエビデンスに基づく政策

PISA と「ゆとり教育」の関係について

○袈岩 晶(国立教育政策研究所)

8月31日(水) ラウンドテーブル(120分) 【第7会場 A304教室】
統計的因果推論・徹底討論ラウンド2

オーガナイザー, 司会者: 星野崇宏(慶應義塾大学 経済学部・大学院経済学研究科)

オーガナイザー, 討論者: 黒木学(情報システム研究機構 統計数理研究所)

R-6-1

Rubin 流の潜在的結果変数アプローチに基づく因果推論

○星野 崇宏(慶應義塾大学 経済学部)

R-6-2

構造的因果モデルから潜在反応モデルへ

○黒木 学(統計数理研究所)

15:20-16:20

8月31日(水) ラウンドテーブル(60分) 【第8会場 A313教室】
アカデミアにおける臨床研究支援に従事する統計学者の役割と課題

オーガナイザー,司会者:下川敏雄(和歌山県立医科大学 臨床研究センター)

討論者:丸尾和司(国立精神・神経医療研究センター)

討論者:山本倫生(京都大学大学院医学研究科 医学統計生物情報学)

R-7-1

アカデミアにおける臨床研究支援と統計研究に関する現況と課題

○下川 敏雄(和歌山県立医科大学 臨床研究センター)

8月31日(水) ラウンドテーブル(60分) 【第9会場 A315教室】
電力・ガス小売り自由化制度にともなう調査研究

オーガナイザー,司会者:中山厚穂(首都大学東京大学院社会科学研究科経営学専攻)

R-8-1

電力・ガス小売り自由化制度にともなう調査研究

○川島 隆志(株)Biz パートナース, 木方 真理子(東京電力ホールディングス(株))

8月31日(水) ラウンドテーブル(60分) 【第10会場 A317教室】
データの可視化の意義～経済データを中心とした事例を取り上げながら～

司会者,討論者:稲水伸行(筑波大学大学院ビジネス科学研究科)

オーガナイザー:上野雄史(静岡県立大学経営情報学部)

R-9-1

データの可視化の意義～経済データを中心とした事例を取り上げながら～

○上野 雄史(静岡県立大学経営情報学部)

16:30-17:30

8月31日(水) ラウンドテーブル(60分) 【第8会場 A313教室】
タンデム分析とその対応

オーガナイザー,司会者:岡太彬訓(立教大学 名誉教授)

討論者:山本倫生(京都大学)

討論者:林拓也(奈良女子大学)

R-10-1

タンデム分析とその対応

○岡太 彬訓(立教大学 名誉教授)

R-10-2

なぜタンデムクラスター化を行ってはいけないのか？

○山本 倫生(京都大学大学院医学研究科)

R-10-3

社会調査データを用いたタンデム・クラスタリング

完全データのクラスタリング、reduced k-means との比較を通して

○林拓也(奈良女子大学 研究院人文科学系)

8月31日(水) ラウンドテーブル(60分) 【第9会場 A315 教室】

リスクの行動計量

オーガナイザー,司会者,討論者:竹村和久(早稲田大学文学学術院)

オーガナイザー,討論者:玉利祐樹(東京大学医学部附属病院)

討論者:広田すみれ(東京都市大学メディア情報学部)

R-11-1

リスク下での意思決定における確率荷重関数とその計量化

○竹村 和久(早稲田大学文学学術院), 村上 始(早稲田大学大学院文学研究科), 玉利祐樹(東京大学医学部附属病院)

R-11-2

描画と言語プロトコル法によるリスク判断の分析

○玉利 祐樹(東京大学医学部附属病院), 井出野 尚(慶応義塾大学), 竹村 和久(早稲田大学文学学術院)

8月31日(水) ラウンドテーブル(60分) 【第10会場 A317 教室】

質問紙調査による社会的ネットワークの測定における課題について

司会者:稲水伸行(筑波大学大学院ビジネス科学研究科)

オーガナイザー:菅野剛(日本大学文理学部)

R-12-1

質問紙調査による社会的ネットワークの測定における課題について

○菅野 剛(日本大学文理学部)

9月1日(木)

10:00-12:00

9月1日(木) 一般セッション(120分) 【第1会場 D301 教室】
計量文献学

座長:阿部貴人(専修大学)

CB1-1 10:00~10:20

自然主義文学と夏目漱石作品における文体の計量的な検討

○土山 玄(同志社大学研究開発推進機構)

CB1-2 10:20~10:40

ジャンルに着目したスパムレビューの傾向分析

○三船 正暁(同志社大学大学院文化情報学研究科), 金 明哲(同志社大学文化情報学部)

CB1-3 10:40~11:00

太宰治の計量的文体分析

助詞を中心として

○尾城 奈緒子(同志社大学大学院文化情報学研究科), 金 明哲(同志社大学文化情報学部)

CB1-4 11:00~11:20

森鷗外の創作文体と翻訳文体の差異について

○肖 雨(同志社大学大学院文化情報学研究科), 金 明哲(同志社大学文化情報学部)

CB1-5 11:20~11:40

入院する前に宇野浩二の文体は既に変わっていたのか

○劉 雪琴(同志社大学大学院文化情報学研究科), 金 明哲(同志社大学文化情報学部)

CB1-6 11:40~12:00

沈從文の文体変化についての計量分析

○鄭 弯弯(同志社大学), 金 明哲(同志社大学文化情報学部)

9月1日(木) 一般セッション(100分) 【第2会場 D302 教室】
災害の計量分析

座長:藤井誠二(新潟県立大学)

CC1-1 10:00~10:20

東日本大震災における主観的被災者意識の形成要因

2015年福島調査より

○福井 英次郎(慶應義塾大学 ジャンモネEU 研究センター), 岡田 陽介(立教大学社会学部)

- CC1-2 10:20～10:40
主観的被災者意識が政治的入力に与える効果
東日本大震災後の2015年福島調査の分析から
○岡田 陽介(立教大学社会学部), 福井 英次郎(慶應義塾大学 ジャンモネEU 研究センター)
- CC1-3 10:40～11:00
原子力発電に対する世論
時系列変動の要因についての検討
○北田 淳子((株)原子力安全システム研究所 社会システム研究所社会意識研究プロジェクト)
- CC1-4 11:00～11:20
地震長期予測地図提示による対処行動の変容への属性要因の影響
一般化線形モデルによる分析
○広田 すみれ(東京都市大学メディア情報学部), 大木 聖子(慶應義塾大学環境情報学部)
- CC1-5 11:20～11:40
地理的尺度構成評価に基づく小地域セグメンテーション調整のこころみ
都市地理学での多変量クラスタリング
○辻 光宏(関西大学総合情報学部)

9月1日(木) 一般セッション(120分) 【第3会場 E301 教室】
数学・統計

座長: 吉田清隆(神戸親和女子大学)

- CD1-1 10:00～10:20
数量化理論: データの双対空間と全空間
○西里 静彦(University of Toronto)
- CD1-2 10:20～10:40
連続・離散変換による情報損失の評価
○馬場 康維(情報・システム研究機構 統計数理研究所)
- CD1-3 10:40～11:00
二項及びポアソンパラメータの区間推定における漸近精度を向上させる擬似度数
○小笠原 春彦(小樽商科大学商学部)
- CD1-4 11:00～11:20
説明変数に欠測を含む回帰モデルによる予測
○岩崎 学(成蹊大学理工学部情報科学科), 高野 海斗(成蹊大学大学院理工学研究科),
戸松 真太郎(成蹊大学大学院理工学研究科)
- CD1-5 11:20～11:40
Jeffreys の事前確率とBDeu の一貫性に関する比較
○鈴木 謙(大阪大学)
- CD1-6 11:40～12:00
Generalized sample size determination formulas and its mathematical properties for hierarchical data
○宇佐美 慧(筑波大学大学院人間総合科学研究科)

9月1日(木) 一般セッション(120分) 【第4会場 E302 教室】
教育

座長: 上山浩次郎(北海道大学)

CE2-1 10:00~10:20

大学・高専学生調査に基づく「社会人基礎力」の測定モデルと構成因子の検討
○芳賀 麻誉美(徳山大学), 天内 和人(徳山工業高等専門学校)

CE2-2 10:20~10:40

経営学部ゼミナールにおけるプログラミング導入教育の効果および分析
LEGO MINDSTORMS を利用したプログラミング教育
○中野 統英(追手門学院大学 経営学部), 原田 章(追手門学院大学 経営学部)

CE2-3 10:40~11:00

教務データを利用した学生の留年及び進路予測
データベースの整備から予測モデルの検討まで
○光永 悠彦(島根大学 教育・学生支援機構 教学企画 IR 室), 原田 健太郎(島根大学
教育・学生支援機構 教学企画 IR 室)

CE2-4 11:00~11:20

認知言語学における図式モデル教材とオンライン英会話サービスを用いた英語文法教育プログラム
の提案と効果測定の試み
○新谷 真由(東京電機大学理工学部 共通教育群), 小川 睦美(日本大学 商学部), 森
一将(文教大学経営学部)

CE2-5 11:20~11:40

数学検定試験における誤り要因分析
○大森 拓哉(多摩大学経営情報学部), 森 一将(文教大学経営学部)

CE2-6 11:40~12:00

標本抽出法を用いた教育調査における標準誤差の算出について
PISA(OECD 生徒の学習到達度調査)の場合
篠原 真子(国立教育政策研究所), ○巖岩 晶(国立教育政策研究所)

9月1日(木) 一般セッション(120分) 【第5会場 E401 教室】
調査データ解析 1

座長: 下川敏雄(和歌山県立医科大学)

CF1-1 10:00~10:20

訪問面接調査における
回収率低下幅の相違について
2010年頃以降の回収率の低下をめぐって
○山田 茂(国士館大学)

CF1-2 10:20~10:40

国際比較調査のデータ分析をめぐる「問題関心」と「統計的技法」の適合性
8か国における宗教意識調査を事例として
○真鍋 一史(青山学院大学 地球社会共生学部)

- CF1-3 10:40～11:00**
 Perception of Environmental Change and Demographic Influences on Its Formation
 Based on analysis of the data collected from China, Japan and South Korea
 ○CHEN YANYAN (同志社大学・文化情報学研究所), ZHENG YUEJUN (同志社大学・文化情報学部)
- CF1-4 11:00～11:20**
 農産物選好における自国バイアスの検証
 ○胡 天利(筑波大学大学院 システム情報工学研究科 社会工学専攻), 高橋 義明(公益財団法人世界平和研究所)
- CF1-5 11:20～11:40**
 グループで演習する看護学科学生 の背後には何かあるか
 ○安田 晃(島根大学医学部医療情報学講座), 平野 章二(島根大学医学部医療情報学講座), 關 真美(島根大学医学部医療情報学講座), 津本 周作(島根大学医学部医療情報学講座)
- CF1-6 11:40～12:00**
 臨床研究の実施負担感に影響を与える要因の検討
 統合指針に関するアンケート調査からの考察
 ○北山 恵(和歌山県立医科大学 臨床研究センター), 高塚 絵理子(和歌山県立医科大学 臨床研究センター), 谷岡 健資(和歌山県立医科大学 臨床研究センター), 土井 麻理子(和歌山県立医科大学 臨床研究センター), 下川 敏雄(和歌山県立医科大学 臨床研究センター), 山本 信之(和歌山県立医科大学 臨床研究センター), 吉川 徳茂(和歌山県立医科大学 臨床研究センター)

13:00-14:00

9月1日(木) ポスター(60分) 【3階廊下】

座長:松本 渉(関西大学), 裴岩 晶(国立教育政策研究所)

- CA1-1 13:00～14:00**
 探索的因子分析のベイズ推定について
 MCMC サンプルング法と変分ベイズ法の長短所
 ○小杉 考司(山口大学教育学部), 清水 裕士(関西学院大学)
- CA1-2 13:00～14:00**
 潜在ランク理論のベイズ推定
 Stan による推定
 ○清水 裕士(関西学院大学社会学部)
- CA1-3 13:00～14:00**
 有配偶女性の地位と性別役割態度の関連は変わったか?
 階層的ログリニアモデルによる分析
 ○木村 邦博(東北大学大学院文学研究科)

- CA1-4 13:00～14:00**
 Web 調査における回答時間の規定要因
 公募型 Web 調査の Likert 型心理尺度項目群に関する探索的調査研究
 ○山田 一成(東洋大学社会学部), 江利川 滋((株)TBS テレビ 編成局マーケティング部)
- CA1-5 13:00～14:00**
 Jリーグ・選手間の三角配位解析
 ○新井 優太(リクルート住まいカンパニー住まい 研究所), 中鉢 健太(新潟大学理学部), 家
 富 洋(新潟大学理学部), 井上 寛康(兵庫県立大学大学院シミュレーション学研究所), 清
 水 千弘(日本大学スポーツ科学部)
- CA1-6 13:00～14:00**
 順序カテゴリ尺度の非単調数量化について
 サーストンモデルと共通数量化の比較
 ○岡本 安晴(日本女子大学人間社会学部心理学科)
- CA1-7 13:00～14:00**
 鉄道用非常ボタン活用における利用者への影響要因の分析
 ○小野寺 順(東日本旅客鉄道株式会社), 犬塚 史章(東日本旅客鉄道株式会社), 山田
 歩(滋賀県立大学人間文化学部), 南 政宏(滋賀県立大学人間文化学部), 広田 すみれ
 (東京都市大学メディア情報学部)
- CA1-8 13:00～14:00**
 日本人の幸福感は低いのか?
 過度の中間選択の原因
 ○増田 真也(慶應義塾大学看護医療学部), 坂上 貴之(慶應義塾大学文学部), 川畑 秀
 明(慶應義塾大学文学部), 木島 伸彦(慶應義塾大学商学部), 星野 崇宏(慶應義塾大学
 経済学部)
- CA1-9 13:00～14:00**
 インセンティブが視線運動に与える影響の研究
 ○宇都 伸之(早稲田大学誠治経済学部)
- CA1-10 13:00～14:00**
 係留寸描法データのベイズ多次元IRT モデル
 ○北條 大樹(専修大学大学院文学研究科), 岡田 謙介(専修大学人間科学部)
- CA1-11 13:00～14:00**
 写真提示のプロセスシミュレーションを用いたマーケティングリサーチ改善
 一解釈レベル理論とメンタルシミュレーションの関係に着目して一
 ○竹内 真登(名古屋大学 大学院経済学研究科), 星野 崇宏(慶應義塾大学 経済学部),
 牛堂 雅文(株式会社ジャパン・マーケティング・エージェンシー)
- CA1-12 13:00～14:00**
 消費態度モデルの再構築
 現代版消費アスピレーションと消費意欲の関連を探る
 ○佐野 美智子(跡見学園女子大学)
- CA1-13 13:00～14:00**
 自然災害がもたらす市民と地域社会の変容
 ○荒井 紀一郎(首都大学東京 都市教養学部法学系), 中條 美和(北海学園大学法学部),
 小林 義治(Nazarbayev University), Park Jee-Kwang (Nazarbayev University)

CA1-14 13:00～14:00

R を利用した表明選好法の教育・研究基盤の開発

○合崎 英男(北海道大学大学院農学研究院), 中谷 朋昭(北海道大学大学院農学研究院), 佐藤 和夫(酪農学園大学農食環境学群)

CA1-15 13:00～14:00

教員志望とその理由の変化

○萩生田 伸子(埼玉大学教育学部)

CA1-16 13:00～14:00

小中学生の5因子性格特性と精神的健康度および不適応行動との関連

○谷 伊織(東海学園大学 人文学部)

CA1-17 13:00～14:00

郵送調査における返信封筒への「御中」記入と社会的属性の関連についての分析

○菅野 剛(日本大学文理学部)

CA1-18 13:00～14:00

shiny アプリを用いた対話的統計分析

項目反応理論を例に

○朝原 広喬(岡山理科大学大学院総合情報研究科社会情報専攻), 片山 浩子(岡山理科大学大学院総合情報研究科社会情報専攻), 水谷 直樹(岡山理科大学大学院総合情報研究科社会情報専攻), 森 裕一(岡山理科大学大学院総合情報研究科社会情報専攻)

CA1-19 13:00～14:00

郵送調査における予告ハガキおよびノベルティの種類が回収率に与える影響

○島田 貴仁(科学警察研究所 犯罪行動科学部), 大山 智也(筑波大学大学院システム情報工学研究科), 雨宮 護(筑波大学システム情報系)

CA1-20 13:00～14:00

個人の嗜好特性を表現したプリファレンスマッピング法の提案

○橋本 翔(関西学院大学 理工学研究科)

14:10-15:40

9月1日(木) 特別講演(90分)

【G 館 SGU ホール】

司会, 討論者: 高田 洋(札幌学院大学)

討論者: 鈴木督久(日経リサーチ), 朝野熙彦(中央大学), 林文(統計数理研究所)

「面談を可視化する」動機づけ面接法の魅力

北田雅子(札幌学院大学)

15:50-16:50

9月1日(木) 柳井レクチャー(60分) 【G館 SGU ホール】

文化を計る試み—浮世絵・文献・考古学の計量分析—

村上征勝(勉強文化情報研究所所長, 統計数理研究所名誉教授, 総合研究大学院大学名誉教授)

17:00-18:00

9月1日(木) 総会(60分) 【G館 SGU ホール】

18:20-20:20

9月1日(木) 懇親会(120分) 【G館 8階ラウンジ】

9月2日(金)

10:00-12:00

9月2日(金) 特別セッション(120分) 【第1会場 D301 教室】
「全国統一治安意識調査」による体感治安の探索 —「インターフェイス型調査」の方法と結果—

オーガナイザー, 司会者: 松本正生(埼玉大学社会調査研究センター)

討論者: 松田映二(埼玉大学)

討論者: 島田貴仁(科学警察研究所)

S-7-1

「インターフェイス型調査」の目的と方法

各都道府県警察主体の「地域の治安」に関する住民意識調査の提案

松本正生(埼玉大学社会調査研究センター), ○若林直子(株式会社 生活環境工房あくと)

S-7-2

都道府県ごとの調査方法の違いは回答に影響を与えるか

マルチレベルモデルを用いた検討

○高木大資(東京大学大学院医学系研究科)

S-7-3

犯罪認知件数と体感治安・犯罪不安 —47 都道府県の分析—
○山本 功(淑徳大学コミュニティ政策学部)

S-7-4

女性の犯罪不安と防犯行動
—社会的視点にもとづく計量分析—
○齊藤 知範(科学警察研究所 犯罪予防研究室)

9月2日(金) 特別セッション(120分) 【第2会場 D302 教室】
次世代型統計教育への展望—クリッカー等を活用したライブ感のある授業実践

オーガナイザー,司会者:竹内光悦(実践女子大学人間社会学部)

S-8-1

様々な事例でご紹介するイマドキの学生とアクティブラーニング
○森田 真基(株式会社朝日ネット)

S-8-2

リアルタイムアンケートアプリ(respon)で実現する次世代コミュニケーション・ラーニング
ICTを活用した大人数クラスにおける持続的なアクティブ・ラーニングの試み
○大津 晶(小樽商科大学商学部 社会情報学科 准教授/学長特別補佐(アクティブ・ラーニング開発およびAP担当))

S-8-3

授業支援システムおよびクリッカーアプリの活用による統計学入門授業のアクティブ化と課題
○酒折 文武(中央大学理工学部数学科)

S-8-4

ICTを活用した次世代型統計教育の展望
○竹内 光悦(実践女子大学人間社会学部)

9月2日(金) 特別セッション(120分) 【第3会場 E301 教室】
調査法研究をめぐる最近の話題—パラデータの活用を中心に—

オーガナイザー,司会者:前田忠彦(情報・システム研究機構 統計数理研究所)

S-9-1

調査研究におけるパラデータ概念の普及と意義
○松本 渉(関西大学総合情報学部)

S-9-2

調査員活動記録の分析事例の紹介
—実査プロセス改善に生かす情報取得を目指して—
○前田 忠彦(情報・システム研究機構 統計数理研究所)

S-9-3

バイアス調整における訪問記録の活用可能性
○伏木 忠義(新潟大学教育学部)

S-9-4

パネル調査における脱落状況の基礎分析

○中村 隆(統計数理研究所), 前田 忠彦(情報・システム研究機構 統計数理研究所)

S-9-5

Web 調査における回答傾向の差異と対処法の探索

○稲垣 佑典(統計数理研究所 調査科学研究センター), 前田 忠彦(統計数理研究所 データ科学研究系)

9月2日(金) 特別セッション(120分) 【第4会場 E302 教室】

健康リテラシー向上と活動量・体組成等生体ログビッグデータの分析

オーガナイザー: 小木哲朗(慶應義塾大学システムデザイン・マネジメント研究科)

オーガナイザー: 渡辺美智子(慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科)

S-10-1

プッシュ型デジタルサイネージによる利用者行動の変化

○伊藤 研一郎(慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科), 小荷田 樹之(慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科), 小木 哲朗(慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科)

S-10-2

歩数増加傾向に基づいた活動目標値設定の試みー全国データの計測値を用いた地域データへの応用ー

○大橋 洸太郎(立教大学社会情報教育研究センター), 小熊 祐子(慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科), 加藤 梨里(慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科), 渡辺 美智子(慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科)

S-10-3

活動量計ログデータに基づく日内活動パターンと体組成指標との関連性の分析

○野村 俊一(東京工業大学大学院情報理工学院), 小熊 祐子(慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科), 渡辺 美智子(慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科)

S-10-4

生体ログデータに基づく活動強度の日内×週内同時パターンの類型化

○山田 知明(慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科), 加藤 梨里(慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科), 小熊 祐子(慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科), 渡辺 美智子(慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科), 小木 哲朗(慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科)

S-10-5

活動量計およびスマートフォンを用いたライフスタイル向上プログラムの設計と実装

○神武 直彦(慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科), 堀尾 大悟(学校法人五大), 今野 浩子(慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科), 傳 裕之(イサナドットネット株式会社)

13:00-15:00

9月2日(金) 一般セッション(100分) 【第1会場 D301 教室】
心理

座長:大森拓哉(多摩大学)

CB2-1 13:00~13:20

行動遺伝学モデルのベイズ分析

○繁樹 算男(帝京大学文学部心理学科), 岡田 謙介(専修大学), 敷島 千鶴(帝京大学),
安藤 寿康(慶応大学)

CB2-2 13:20~13:40

Likert 尺度再考

正規直交多項式主成分分析による検討

○村上 隆(中京大学現代社会学部)

CB2-3 13:40~14:00

多値型IRTにおける条件付きベイズ推定量の最適性について

○森 一将(文教大学経営学部)

CB2-4 14:00~14:20

多次元項目反応理論モデルでの複数特性の線形結合に関する周辺モデルの提案

○分寺 杏介(東京大学大学院 教育学研究科), 星野 崇宏(慶應義塾大学 経済学部・大
学院経済学研究科)

CB2-5 14:20~14:40

空間的視点取得に必要なスキルは認知的スキルと知覚的スキルに分離できる

反応時間データに対する探索的因子分析の適用

○武藤 拓之(大阪大学大学院人間科学研究科・日本学術振興会), 松下 戦具(大阪大学
大学院人間科学研究科), 森川 和則(大阪大学大学院人間科学研究科)

9月2日(金) 一般セッション(100分) 【第2会場 D302 教室】
ICT 利用

座長:伊藤公紀(札幌大学)

CC2-1 13:00~13:20

購買履歴データを用いたブランド・リレーションシップの測定

○上田 雅夫(早稲田大学大学院 創造理工学研究科)

CC2-2 13:20~13:40

ケータイ・ライフスタイルの時系列的考察II

—スマホの登場によるケータイ機能利用の構造変化—

飽戸 弘(東京大学名誉教授), 栗原 一浩(NTTドコモ モバイル社会研究所), 吉良 文夫
(NTTドコモ モバイル社会研究所), 松本 健太郎(NTTドコモ モバイル社会研究所),
○栗原 俊介(NTTドコモ モバイル社会研究所), 水野 一成(NTTドコモ モバイル社会
研究所)

- CC2-3 13:40～14:00**
 シニアのICT利用に関するライフスタイル・アプローチ(1)
 —シニアの「日々の活動」と「人間関係」による類型化の試み—
 鮑戸弘(東京大学名誉教授), 栗原一浩(株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所), 吉良文夫(株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所), 松本健太郎(株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所), 栗原俊介(株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所), ○水野一成(株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所)
- CC2-4 14:00～14:20**
 シニアのICT利用に関するライフスタイル・アプローチ(2)
 —類型化されたシニアの社会的分布とICT利用—
 鮑戸弘(東京大学名誉教授), 栗原一浩(株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所), ○吉良文夫(株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所), 松本健太郎(株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所), 栗原俊介(株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所), 水野一成(NTTドコモ モバイル社会研究所)
- CC2-5 14:20～14:40**
 移動と情報行動に関する研究
 移動中の通信メディア利用を中心に
 ○是永 論(立教大学社会学部 メディア社会学科)

9月2日(金) 一般セッション(120分) 【第3会場 E301 教室】
調査データ分析 2

座長:高田 洋(札幌学院大学)

- CD2-1 13:00～13:20**
 企業が新卒採用者に求める力
 山口県企業調査に基づく検討
 ○芳賀 麻誉美(徳山大学), 天内 和人(徳山工業高等専門学校)
- CD2-2 13:20～13:40**
 マクロ指標を考慮した企業の信用リスクの推定について
 浦部 治一郎(同志社大学文化情報学部), ○熊野 元樹(同志社大学文化情報学研究所)
- CD2-3 13:40～14:00**
 三世代同居と子ども数の関係について
 ○鈴木 貴士(筑波大学 大学院 ビジネス科学研究科 経営システム科学専攻), 尾崎 幸謙(筑波大学 大学院 ビジネス科学研究科 経営システム科学専攻)
- CD2-4 14:00～14:20**
 複数の測定法による展示観覧行動データの基礎分析
 科学コミュニケーション活動事例の検討
 ○加藤 直子(茨城大学農学部), 前田 忠彦(統計数理研究所), 岩橋 建輔(分子科学研究所 計算科学研究センター)

CD2-5 14:20～14:40
ウェブによるストーキング被害調査の設計と実施
-若年女性のストーキング被害と意思決定に関する研究(1)-
○島田 貴仁(科学警察研究所 犯罪行動科学部)

CD2-6 14:40～15:00
確率的潜在意味構造モデリングによる高齢者アンケートデータ分析
○井手 絢絵(産業技術総合研究所/東京工業大学情報理工学院), 竹内 理人(産業技術総合研究所/東京工業大学情報理工学院), 本村 陽一(産業技術総合研究所)

9月2日(金) 一般セッション(100分) 【第4会場 E302 教室】
工学

座長:今井英幸(北海道大学)

CE3-1 13:00～13:20
m-DSAM を用いたタスク実行中の脳活動の特徴付け
船田 忠(立教大学 理学部), ○船田 眞里子(白鷗大学経営学部)

CE3-2 13:20～13:40
運転行動におけるタスクモデリング
車載センサーデータの記号化と運転行動文法の作成
○山崎 啓介(産業技術総合研究所 人工知能研究センター), 本村 陽一(産業技術総合研究所 人工知能研究センター)

CE3-3 13:40～14:00
WiFi 環境と学術広告型デジタルサイネージの同時導入とその効果
○鈴木 歩(静岡理工科大学総合情報学部), 水野 信也(静岡理工科大学総合情報学部), 鈴木 祐介(株式会社 TOKAI コミュニケーションズ), 藤澤 由和(静岡県立大学経営情報学部)

CE3-4 14:00～14:20
感性ユーザーモデルの構築のためのデータ収集方法
○櫻井 瑛一(産業技術総合研究所), 本村 陽一(産業技術総合研究所), 安松 健(オービス総研), 坂本 和夫(広島大学), 道田 奈々江(マツダ株式会社)

CE3-5 14:20～14:40
ロボットと“妖怪”その性格と対応関係
○大島 直樹(東京電機大学 情報環境学部), 金子 博(東京電機大学 情報環境学部), 武川 直樹(東京電機大学 情報環境学部), 菊地 賢一(東邦大学 理学部 情報科学科)

日本行動計量学会第 44 回大会

主催: 日本行動計量学会第 44 回大会実行委員会

於: 札幌学院大学

開催日: 2016 年 8 月 30 日～9 月 2 日

○ 実行委員会

大会実行委員会委員長

中村 永友(札幌学院大学)

実行委員

高田 洋(札幌学院大学、副委員長)

合崎 英男(北海道大学)

伊藤 公紀(札幌大学)

今井 英幸(北海道大学)

上山 浩次郎(北海道大学)

小笠原 春彦(小樽商科大学)

中島 晃(北海道大学)

長谷部 文雄(北海道大学)

水田 正弘(北海道大学)

松本 涉(関西大学)

尾碕 幸謙(筑波大学)

上野 雄史(静岡県立大学)

大森 拓哉(多摩大学)

下川 敏雄(和歌山県立医科大学)

菅野 剛(日本大学)

角田 弘子(日本ウェルネススポーツ大学)

中井 美樹(立命館大学)

中山 厚穂(首都大学東京)

藤井 誠二(新潟県立大学)

星野 崇宏(慶應義塾大学)

褰岩 晶(国立教育政策研究所)

森 裕一(岡山理科大学)

横山 暁(帝京大学)

吉田 清隆(神戸親和女子大学)

○ 協賛(2016 年 7 月 15 日現在)

株式会社 朝倉書店

株式会社 インテージ

株式会社 NTT データ数理システム

株式会社 北大路書房

一般社団法人 社会調査協会

シュプリンガー・ジャパン株式会社

株式会社 ダイアモンド社

一般財団法人 統計質保証推進協会

株式会社 ナカニシヤ出版

公益財団法人 日本英語検定協会

株式会社 日本リサーチセンター

○ 後援(2016 年 7 月 15 日現在)

江別市

編集: 日本行動計量学会第 44 回大会実行委員会
発行: 日本行動計量学会